

厚生労働科学研究費補助金(地球規模保健課題推進研究事業)

「我が国の世界保健総会等における効果的なプレゼンスの確立に関する研究」(H29-地球規模一般-002)

平成30年度分研究報告書

Global Health Diplomacy Workshop

研究担者	明石秀親	国立国際医療研究センター 連携協力部長
	三好明	国立国際医療研究センター 人材開発部長
	坂元晴香	東京大学大学院医学系研究科 国際保健政策学教室 特任研究員
研究協力者	渋谷健司	東京大学大学院医学系研究科 国際保健政策学教室 教授
	野村周平	東京大学大学院医学系研究科 国際保健政策学教室 助教

研究要旨

グローバル・ヘルスの重要性が高まっている中、我が国が主導してグローバルヘルスの課題を前進させ、主要会合において効果的に議論を先導する役割を果たすためには、そのようなことを可能とする人材の育成が急務である。本研究は、同じようにグローバルヘルス領域での人材育成を優先課題として掲げるタイと協力し、日・タイ双方の将来を担う若手人材に対し会議でのスピーチや交渉、効果的・戦略的介入、ファシリテーション等の能力開発を行うものである。

研修は年に2回(日・タイ 各1回)、2～4日間の日程で開催され、参加者たちはグローバルヘルスの概況から具体的な交渉術まで、グローバル・ヘルス領域における基礎的スキルについて包括的学ぶ。研修の最後には参加者全員に対してアンケート調査を実施し今後 WHO 総会等国際会議に参加する際や、日々の業務においてどのような点が有用だったか聞き取りを行い、研修内容の適性や効果を確認する。

A. 研究目的

グローバル・ヘルスの重要性が高まっている中、我が国が主導してグローバル・ヘルスの課題を前進させ、主要会合において効果的に議論を先導する役割を果たすためには、そのようなことを可能とする人材の育成が急務である。本研究は、同じようにグローバル・ヘルス領域での人材育成を優先課題として掲げるタイと協力し、日・タイ双方の将来を担う若手人材に対し会議でのスピーチや交渉、効果的・戦略的介入、ファシリテーション等の能力開発を行うものである。

B. 研究方法

年に2回(日本・タイ各1回)で、グローバルヘルス領域の中でも特に保健外交に焦点を当てた研修を開催する。対象は、厚生労働省保健省 アカデミア、NGO職員等グローバルヘルスに関わる若手中堅とする。また、日本とタイ以外にも、グローバルヘルス領域における人材開発に興味を有する国については参加を促す(フィリピン、ラオス等)。

研修は数日間にわたり行い、扱った内容については主に以下の内容とする：

- 1) グローバル・ヘルスの概況
- 2) グローバル・ヘルスにおける主要アクターの変化
- 3) グローバル・ヘルスの主要課題の傾向
- 4) WHO 総会等の WHO governing body における意思決定プロセスのあり方
- 5) WHO 総会等における効果的なインターベンションの構築方法
- 6) 国際会議等における交渉術

ワークショップ終了時点で参加者全員を対象としたアンケート調査を実施し、今後WHO総会等国際会議に参加

する際や、日々の業務においてどのような点が有用だったか聞き取りを行い、研修内容の適性や効果を確認する。

C. 研究結果

平成 31 年度には 5 月に 2 泊 3 日の日程でタイにて、12 月には 1 泊 2 日の日程で日本にて研修を開催した(プログラム詳細については参考資料として掲載)。日本の研修は前年に比べ参加対象者を絞り、25 名の参加があった他、タイの公衆衛生省と外務省及び中国から国際保健の有識者を招聘し、研修全般に渡り支援を受けた。

日本での研修では、最初にグローバルヘルスの概況、グローバルヘルス領域のアクターの変化、現在のグローバルヘルスにおける主要課題等について講義を行った。その後、WHO 総会における主要議題のうち、「がん患者における緩和ケア」並びに「結核の撲滅に向けて」の2つについて、参加者各自に発言を作成してもらい、実際に発言・プレゼンテーションを実施した。交渉術に関しては、「WHO への分担金増加について」を取り上げ、参加者各自をスタンスの異なる複数の国に割り振り、実際の交渉の練習をおこなった。

研修後のアンケート調査では、大半の参加者から参考になったという好意的なフィードバックが得られた。WHO総会等の国際会議に参加できる機会是非常に限られているが、実際に発言をする可能性のある参加者に絞ったことも研修が効果的であったとされる。また、関連会合への参加が直近で予定されていない参加者にとっても、日本、タ

イ、中国の3カ国による関連会合への準備プロセスに関する情報や交渉の練習については、日常の業務においても参考となる内容であったとの回答があった。

D. 結論

我が国がグローバルヘルスを牽引していく上で、グローバルヘルス領域で活躍できる人材の育成は急務であるが、今までは体系的なトレーニングの機会は限られていた。今回実施した研修は包括的にグローバルヘルス領域の全体像を学べるとともに、発言や交渉等に実践も含まれており、参加者にとって非常に満足度の高いものとなった。他、日本及びタイ双方における人的ネットワークの構築にも貢献した。

今後とも継続して人材育成研修を実施していくことが望ましい。

E. 研究発表

1. 論文発表

特になし

2. 学会発表

特になし

F. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

1. 特許取得

特になし

2. 実用新案登録

特になし

3. その他

特になし

